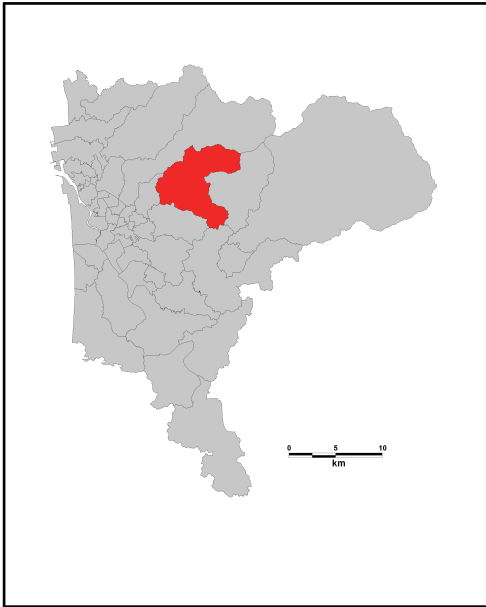
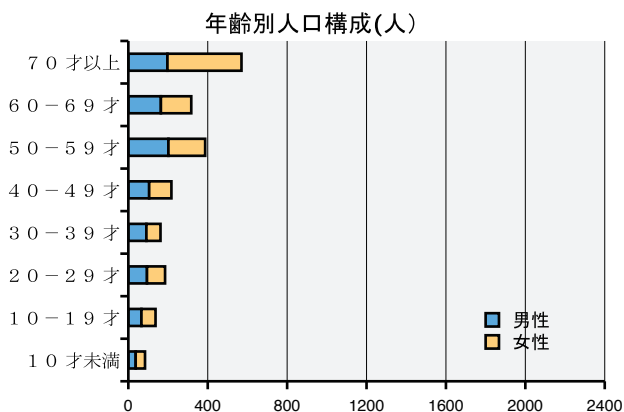


位置図



1 居住者の現況

人口(人)	2,059
世帯数(世帯)	779
65歳以上人口(人)	720
65歳以上世帯(世帯)	248
5歳未満人口(人)	31



2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

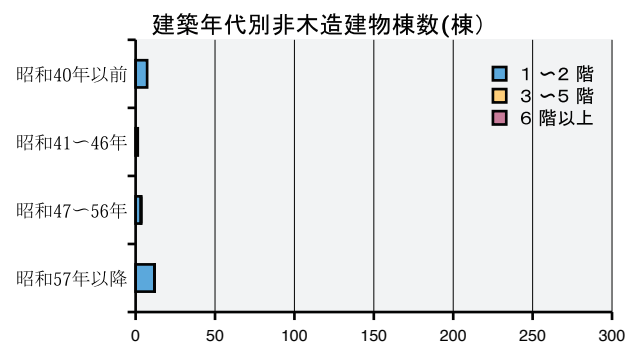
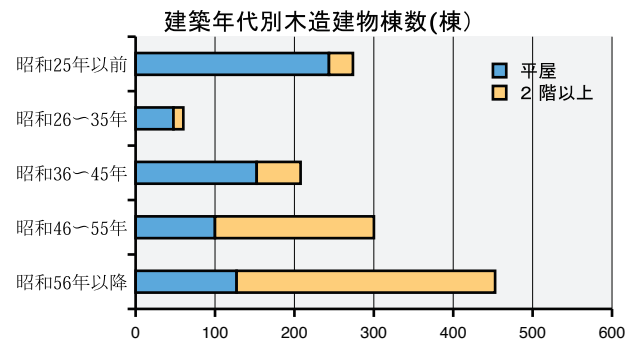
木造建物	1,294
非木造建物	24
合計	1,318

■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

建築年	平屋	2階以上
昭和56年以降	127	326
昭和46年～昭和55年	100	200
昭和36年～昭和45年	152	55
昭和26年～昭和35年	48	12
昭和25年以前	244	30

■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

建築年	1～2階	3～5階	6階以上
昭和57年以降	12	0	0
昭和47年～昭和56年	3	0	0
昭和41年～昭和46年	1	0	0
昭和40年以前	7	0	0



自然的・社会的基本指標

秋田市東部に位置し、概ね山地と大平川水系が作る谷底平野からなっている。谷底平野に集落が点在しているが、なかでも市街地に近い学校区西端部に住宅が集中している。急傾斜地等の危険箇所指定地が多い。人口構成は、50歳以上の年齢層が全体の6割を占めている。65歳以上の高齢者層は全体の35%を占める。建物は昭和56年以前の建築物の比率が高く、昭和25年以前に建てられた古い木造建物も多い。昭和56年以降の建物は全体の35%である。

3 急傾斜地等の現況

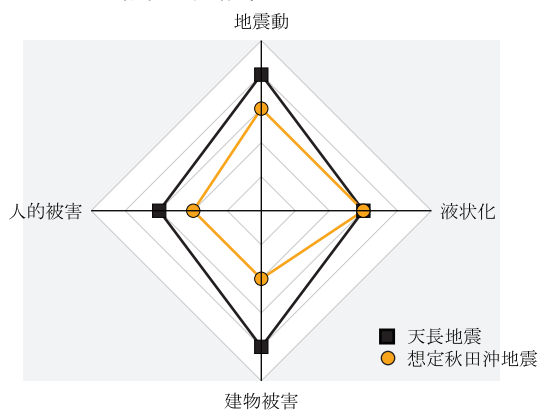
指定種別(箇所数)	箇所名
急傾斜地崩壊危険箇所(17)	堂ノ前、木曾石、神田、太平八田、目長崎、上館、谷地、屋敷前、雛沢 他
なだれ危険箇所(19)	太平八田字八田、木曾石、目長崎、舞鶴館、上館、神田 他
地すべり危険箇所(0)	該当箇所なし
土石流危険渓流(43)	稲荷沢、宮沢、井関沢、平形沢、木曾石沢、上八田沢、藤ノ沢、藤ノ崎沢、釜沢 他

4 地震被害に関する指標(地震被害想定結果)

■ 被害想定結果一覧表

	天長地震	想定秋田沖地震
平均震度	6 弱	5 強
液状化危険度	ランク 3	ランク 3
木造建物大破数(棟)	162	20
非木造建物大破数(棟)	1	0
死者数(人)	15	2

被害想定結果レーダーチャート



レーダーチャートの見方

このレーダーチャートは、地震被害想定調査の主要な結果に基づいて、各項目毎に最も危険度が低い場合を1、最も危険度が高い場合を5として点数化してグラフに表したものです。グラフのひし形の面積が広いほうが総合的な地域の危険度が高いことを示しています。

地震時危険要素

天長地震を想定した場合、平均震度は6 弱となる。建物の大破棟数は160棟程度となる。大破率は10%を超える。これに伴い10人以上の死者が発生するものと想定される。

想定秋田沖地震では、学校区内の平均震度は5 強となる。建物の大破棟数は20棟程度となり、死者が発生する可能性がある。

津波に対する危険要素

津波による浸水の危険性はないものと見られる。

5 防火・防災施設に関する指標

■ 消防関連施設

消火栓数(箇所)	16
防火水槽(箇所)	13
消防車台数(台)	6
消防ポンプ数(台)	2
消防団員数(人)	127

■ 避難所/避難場所

避難所/避難場所	屋内/屋外	収容人員(人)
太平小学校	屋内	172
太平地域センター	屋内	93
太平小学校グラウンド	屋外	3,200

■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	城東消防署
管轄警察署	秋田東警察署
病院数	0
最寄の救急告示病院	秋田大学医学部附属病院
自主防災組織数	13

■ 学校区内の主要な公共施設

施設名	住所
太平地域センター	太平目長崎字沼田42

防災上の課題と対策

太平小学校区は、太平川中流域および八田川流域を含む中山間地である。学校区内には高齢者福祉施設があるものの、医療機関はないため、災害時に負傷者等の搬送方法について検討しておくことが必要である。人口構成では、65歳以上の高齢者比率が35%であり、災害時に十分対応できない人も相当数含まれる可能性がある。避難などに近隣住民の協力が必要となるが、学校区外の支援団体等の協力関係を構築することも有効な対策となる。学校区内には、土砂災害およびなだれ危険箇所が多数あること、および避難施設までの距離があることなどから、このような危険箇所を避ける配慮をした上で、各集落ごとに災害時の一時的な避難場所並びに避難経路を選定することが必要である。